

「姫路市農林水産振興ビジョン（案）」に関する市民意見  
（パブリック・コメント）の募集結果について

1 市民意見（パブリック・コメント）の概要

（1）案件名

姫路市農林水産振興ビジョン（案）

（2）意見募集期間

令和5年12月20日（水）～令和6年1月19日（金）

※ 広報ひめじやホームページへの掲載のほか、市の機関（農政総務課、市政情報センター、各地域事務所・支所・出張所・サービスセンター、駅前市役所、曾左・四郷・八幡公民館）への資料設置等により意見を募集

（3）意見提出件数

175通 210件

（4）意見の内容

項目	件数
第1章 農林水産業・農山漁村の現状と課題に関すること	1件
第2章 農林水産業・農山漁村の将来像に関すること	—
第3章 ビジョン実現に向けた方策に関すること	148件
第4章 計画期間内に取り組むアクションプランに関すること	60件
第5章 ビジョンの推進体制に関すること	—
その他に関すること	1件
合計	210件

（5）修正した項目

2件

## 2 提出された市民意見の要旨とそれに対する市の考え方

### ◎ 第1章 農林水産業・農山漁村の現状と課題に関すること

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
1	3 姫路市の農林水産業・農山漁村の現状と課題	昨今のジェンダーレスの風潮から考えると、女性農業者の人数や割合をビジョンに特記する意図が分かりかねる。記載理由を示してほしい。	1	SDGsにおいて、ジェンダー平等の実現が目標として掲げられており、あらゆる場所におけるすべての女性及び女兒に対するあらゆる形態の差別を撤廃することとされています。農業分野においても、性別によって職業選択が制限されるべきではありません。 また、農業の担い手不足解消の観点からも性別に関わらず多様な人材に農業へ興味を持っていただくことは非常に重要な事です。その中で、性別により偏りが生じている現状を把握し、示すことは今後施策を考えていく上で必要であると考えております。

### ◎ 第3章 ビジョン実現に向けた方策に関すること

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
2	基本的方向1 持続可能な農 林水産業の推 進	(1) 農業の多様な担い手の確保・育成	1	本ビジョンP32(1)農業の多様な担い手の確保・育成の方策において、新規就農者の確保や就農定着に向けた支援をすることとしており、ご意見については、当該方策に基づき事業を実施するうえで参考とさせていただきます。
3		農業参入へのハードルが高く就農者が少ない、また、就農後早期に経営的に自立することが難しい現状があるため、新規就農者や就農希望者への支援として、補助金支給の条件の緩和が必要と考える。	1	
4		新規就農者や就農希望者への支援として、就農10年目前後で設備投資への補助金等を準備することが必要と考える。	1	
5		認定農家や若手農家グループへの取り組み支援が必要と考える。	1	
5		生産者と消費者の「縦」の繋がりでなく生産者同士の「横」の繋がりを広げるなら、既存の農業者への支援(例えば集落営農の組織化や法人化など)だけでなく、新規就農者同士の小規模なグループなどへの支援もあると望ましいように感じる。	1	

No.	項目		意見の要旨	件数	市の考え方
6	基本的方向1 持続可能な農 林水産業の推 進	(1) 農業の 多様な担い手 の確保・育成	就農への支援や就農後の支援について年齢制限は不要なのではないか。	1	本ビジョンP32(1)農業の多様な担い手の確保・育成の方策において、年齢・性別にかかわらず多様な担い手を確保・育成することとしております。就農支援については、様々な制度があり、支援制度によっては、その目的（青年等が農業を専業で行うことによる生活安定のための支援など）から年齢制限が設けられているものもありますが、年齢制限の無い支援制度もございますので、就農希望者の個別の事情に応じ、引き続き支援してまいります。
7			担い手として早期退職者をターゲットにしてはどうか。	1	本ビジョンP32(1)農業の多様な担い手の確保・育成の方策において、年齢・性別にかかわらず多様な担い手を確保・育成することとしており、早期退職者かどうかに関わらず就農希望者の個別の事情に応じ、引き続き支援してまいります。
8			認定新規就農者になる前段階での助成金などの支援を手厚くしていただきたい。	1	本ビジョンP32(1)農業の多様な担い手の確保・育成の方策において、新規就農者の確保や就農定着に向けた支援をすることとしており、就農準備資金など、認定新規就農者になる前段階で活用できる補助制度の活用を引き続き促進してまいります。また、農業研修（ひめじ帰農塾や林田チャレンジ農園栽培技術講習会など）のほか、現地指導や栽培技術の動画配信などの就農定着に向けた支援を行っており、今後も当該方策に基づき必要に応じて支援内容の充実等に努めてまいります。
9			会社員をしていると農地の取扱いや必要な資材・機械の知識もなく、足を踏み入れにくい。若い世代の担い手を確保するには、農業を副業として気軽にできるよう、必要な設備やかかる手間等の情報をオープンにして敷居を下げる必要があると思う。	1	本ビジョンP32(1)農業の多様な担い手の確保・育成の方策において、新規就農者の確保や就農定着に向けた支援をすることとしております。作物や規模、育て方等により、必要な資材・機械は変わってきますので、初めて農業をされる方が、自分に合った作物や栽培方法等を見つけていただけるよう、パンフレット等による就農事例の紹介や農業研修等による栽培技術指導、インターンシップ等への参加等引き続き参入しやすい環境づくりに努めてまいります。

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
10	基本的方向1 持続可能な農 林水産業の推 進	(1) 農業の 多様な担い手 の確保・育成  新規就農者や就農希望者への支 援として、インターン制度(1箇 所だけでなく複数)を必須にし て、先輩農家との繋がりを強化 する必要があると考える。自分 も研修に行かせてもらった体験 から、研修自体よりその後の相 談や付き合いの大切さを実感し ている。農業は1人では成り立 たせることが非常に難しく、新 規就農から5年で補助金等の支 援が終わった時に、補助金なし では成り立たない生産者が多数 いると聞いたことがある。近く に目標となる生産者や頼りにな る法人が多数いれば、技術面だ けでなく、経営面でのアドバイ スやサポートが充実する可能性 が高くなる。また、小さくても 強い農業(所得も平均所得以上) を増やすことで、農業の職業と しての魅力アピールすることが できると考える。	1	本ビジョンP32(1)農業の多様な担い 手の確保・育成の方策において、新 規就農者の確保や就農定着に向け た支援をすることとしており、新 規就農希望者には、就農ための技 術や知識の習得のために、インター シップ事業の活用を促進していま す。また、認定新規就農者の内、経 営開始資金を受けている方につい ては、令和2年よりサポートを行う親 方農家を定めることが要件となっ ており、就農後の定着に繋がるよう に持続的な支援に努めてまいります。
11		ひめじ帰農塾は、自給的農家の レベルアップや直売所出荷でき る農業者の育成として素晴らしい が、基礎的な内容で回数も2 1回と少なく、直売所出荷を目 指すにはさらに勉強が必要。果 樹の栽培実地指導の回数増や帰 農塾利用後の農業支援をお願い したい。	1	本ビジョンP32(1)農業の多様な担い 手の確保・育成の方策において、就 農定着に向け、農業研修等の支援を することとしております。農業研修 の具体的な内容等については、ご意 見を踏まえ、講座回数の追加や実技 体験のさらなる充実を図り、より良 い研修になるよう努めてまいりま す。また、研修生の修了後につきま しても、個別な栽培技術相談の対応 や、現地巡回指導を逐次行うなど、 就農定着に向けた支援を実施してま いります。
12		集落営農を担うオペレーターや 後継者等の人材育成に関する支 援強化策として、大型トラクタ ー操作メンテナンス技術習得に ついては(トラクターを所有す る集落営農に依頼するなどの方 法で)事前に実技訓練をさせ、 自信をつけさせてから本番の資 格を習得させることも必要かと思 う。	1	本ビジョンP32(1)農業の多様な担い 手の確保・育成の方策において、集 落営農の組織化・法人化を支援す ることとしております。集落営農は主 に土地利用型作物を栽培するため、 大型トラクター等の農業用機械を運 用できるオペレーターの育成支援が 必要不可欠であると考えているこ とから、ご意見については、当該方 策に基づき事業を実施するうえで参 考とさせていただきます。

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
13	基本的方向1 持続可能な農 林水産業の推 進	(1) 農業の 多様な担い手 の確保・育成	1	本ビジョン P32(1)農業の多様な担い 手の確保・育成の方策において、収 益性の高い農業経営の推進として給 食等での利用も促進することとして おり、ご意見については地産地消事 業を進めるうえで参考とさせていただ き、学校給食の所管課にも情報を 共有させていただきます。
14			1	本ビジョン P32(1)農業の多様な担い 手の確保・育成の方策においては、 畜産業の経営安定化の観点から、 P56(9)環境保全型農林水産業の推進 の方策においては、環境負荷低減の 観点から、耕畜連携を推進すること としており、粗飼料生産、家畜排泄 物のたい肥利用など、資源循環利用 の取組が広がるよう周知してまいり ます。
15	(2) 農業生 産基盤の保全 と整備	安富町北部は、兼業農家が多数 を占める山村地域であるが、高 齢化や人口減少が進んでいる。 しかしながらこういった地域ほ ど豊かな自然を有しており、経 済効果が薄くても、環境保全型 農業や若手農家の誘致等、農業 が受け継がれていく仕組みづく りの施策をお願いしたい。	1	これからの地域農業を維持するた め、住民など地域に関わる幅広い関 係者が話し合うことで、将来の農地 利用の姿や農業の担い手が明確化さ れた「地域計画」を策定することと なっており、本ビジョン P39(2)農業 生産基盤の保全と整備の方策におい ても、地域計画の策定に向け、地域 の関係者の話し合いを促していくこ ととしております。この「地域計 画」を契機に、地域の農地は地域で 守るという機運の醸成に努めていき たいと考えております。
16		集落営農が存続の危機に陥って いる。自分たちがやらないと思 っても一歩足が進まない。	1	
17		新規農林漁業就業者などに様々 な補助金支援などはもちろん必 要だが、地域で暮らす我々も他 人事ととらえず、地区一帯とな って支えていかなければならな いと思う。新規農林漁業就業者 と地域住民が助け合い、細かい ことでも互いにできることを話 し合えば、活性化につながると思 う。	1	また、本ビジョン P56(9)環境保全型 農林水産業の推進の方策において、 環境負荷低減の取組を推進していく こととしており、環境保全型農業に ついては、国の補助事業である「環 境保全型農業直接支払交付金」を活 用し、県・市が連携して支援してお り、引き続き、環境保全型農業に取 り組む生産者を支援してまいりま す。

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
18	基本的方向 1 持続可能な農 林水産業の推 進	(3) 林業の 基盤整備と担 い手の確保・ 育成	1	本ビジョン P41 (3) 林業の基盤整備と 担い手の確保・育成の方策におい て、木材利用を促進することとし ており、本市におきましては、現在、 公共建築物等における内装の一部を 木質化し、庁内備品等に本市市有林 で実施した間伐や主伐により搬出し た木材を活用するなどし、木材利用 の促進を図っております。今後も引 き続き、平成 25 年 (2013 年) 2 月に 策定した「姫路市の公共建築物等 における木材利用の促進に関する方 針」に基づき、公共施設や建築工事 における木材利用に関して、地域産 材の利用促進に努めてまいります。
19			1	木材利用でもここ数年、姫路市 の公共建築物等で地元の市産材 を利用していただき大変嬉しく 思っている。これからも姫路市 の様々な建築物等で市産材を利 用促進していただき、木のぬく もりがあふれるまちになってく れることを願っている。
20			姫路市北部の森林は、水源のか ん養機能を発揮できるよう、市 が主体となって、森林組合等の 関係者とともに間伐を実施し、 伐りだされた木材について、市 の施設の暖房用燃料やふるさと 納税の返礼品としての利用をし ていただきたい。	1
21		壊れにくい作業道の開設により 搬出間伐等を促進するととも に、搬出木材を家具やおもちゃ に加工することで二酸化炭素の 吸収をはじめ森林の公益的機能 の発揮につながると考えてい る。木のおもちゃを使うことで 山に興味をもってもらい、林業 関係への就職につながれば理想 ではないか。	1	本ビジョン P41 (3) 林業の基盤整備と 担い手の確保・育成の方策におい て、木材利用を促進することとし ており、現在、本市におきましては、 市有林から搬出された木材を活用 し、机や棚などを製作し、庁舎内に 設置することで、市民の皆さまに木 工製品の良さを目にしていただい ております。ご意見のとおり、子ども の頃から木工製品にふれることで、 森林の大切さを知るきっかけにな ると考えますので、関係部局と連携 しながら、木育に関する取組を進 めてまいります。

No.	項目		意見の要旨	件数	市の考え方
22	基本的方向1 持続可能な農 林水産業の推 進	(3) 林業の 基盤整備と担 い手の確保・ 育成	手入れが必要な森林であつても、所有者が分からない、隣接地の境界が分からない等の理由から森林整備が行えないことが多い。森林境界の明確化は、そういった森林の整備促進につながるほか、山林地籍調査への活用もできるため、「林業基盤の整備と担い手の確保・育成について」の項目で記載されている施策の中でも、森林境界明確化の推進を行うことが特に重要であると考えている。	1	本ビジョンP41(3)林業の基盤整備と担い手の確保・育成の方策において、森林整備を推進することとしている中で、本市としましても、所有者不明や境界不明瞭森林の増加は、森林整備を推進していく上でも解決しなければならない問題であると認識しております。森林環境譲与税を活用し実施した航空レーザ計測により解析した森林資源量調査や林地台帳等を山林部地籍調査にも活用し、境界明確化等を推進してまいります。
23			環境型林業を実現するためには基盤整備が必須となる。特に森林作業道の開設の有無で山は大きく変わってくる。姫路市が推進している「壊れにくい作業道」の開設により主伐から植栽、その後の管理まで、大きな補修工事を行うことなく作業を行うことができるため、壊れにくい作業道の開設は安全作業・管理及び循環型林業を推進していくために必要である。	1	ご意見のとおり、循環型林業の実現には、作業道の整備と高性能林業機械の活用を組み合わせること等による低コストな基盤整備が重要となります。本ビジョンP42(3)林業の基盤整備と担い手の確保・育成の方策において、林業生産基盤整備と効率的な作業システムの推進を図っていくこととしており、国・県の事業を活用した森林整備（基盤整備）を進めるとともに、森林環境譲与税を活用した「森林作業道機能強化事業」により、基盤整備の促進をしてまいります。
24			労働力の軽減に繋げるため、木材搬出の際車両の走行に支障が無いよう、林道の補修整備や作業道の開設に取り組んでいただきたい。	1	森林資源の循環には、林道や森林作業道が必要となってまいります。山林内に開設となることから、土砂の流出や道路の洗堀など通行に支障をきたす危険性を防ぐことも必要となります。本ビジョンP42(3)林業の基盤整備と担い手の確保・育成の方策において、林業生産基盤整備と効率的な作業システムの推進を図っていくこととしており、安心安全に木材等の搬出や森林の維持管理を行うため、土留対策や洗堀対策などを支援する森林環境譲与税を活用した「森林作業道機能強化事業」により、安全な路網の開設・補修を行うことで、林業従事者を支援してまいります。

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
25	基本的方向1 持続可能な農 林水産業の推 進  (4) 水産資 源の維持・回 復による豊か な海の実現	資源維持のための有用魚種の放流を引き続き適正な規模で実施するとともに、天然資源に左右されない、新たな養殖業の開発等に積極的な支援をお願いしたい。	1	本ビジョンP44(4)水産資源の維持・回復による豊かな海の実現の方策において、つくり育てる漁業と資源管理型農業を推進していくこととしており、有用魚種の放流について、引き続き定着性の高い有用魚介類の種苗放流を進めてまいります。また、天然資源の増減に影響されることがない貝類や藻類の養殖業等の新たな漁業の開拓も支援してまいります。
26		漁場の保全と回復について、引き続き海底耕耘や廃棄物の除去など有効な取組について姫路市の支援をお願いしたい。	7 2	本ビジョンP44(4)水産資源の維持・回復による豊かな海の実現の方策において、漁場環境の保全と回復を図るため、海底耕耘やクラゲ等の漁業有害生物の駆除、漁場廃棄物の除去、豊かな漁場を守る監視活動等を行う漁業者等の取組を支援することとしており、それぞれ有効な取組を支援してまいります。
27		豊かな海を取り戻すため、栄養塩の増加についてさらに積極的な取組を県と共に進めてほしい。	2 7	本ビジョンP44(4)水産資源の維持・回復による豊かな海の実現の方策において、漁場の貧栄養化の抑制を図ることとしており、栄養塩の管理については、本市としましても、重要な課題と認識しており、積極的に取り組んでまいります。また、栄養塩管理運転について「今後も継続的な実施に努めます」から「今後も継続的に実施していきます」に文章を修正します。
28		豊かな海の回復、漁場環境の改善に漁業者も様々な取組を実施している。姫路市も積極的な支援や啓発を行って欲しい。	1	本ビジョンP44(4)水産資源の維持・回復による豊かな海の実現の方策において、豊かな漁場を守る監視活動等を行う漁業者等の取組を支援していくこととしており、重要な事業や取組については市ホームページ等で発信しており、今後も引き続きホームページ等を通じて広く発信、普及に努めるとともに、直接漁業者等に啓発した方が効果的なものについては漁協とも連携して支援してまいります。



No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
29	基本的方向1 持続可能な農 林水産業の推 進	(6) スマート農林水産業の促進 スマート農業機械を活用した省力化として、農業用ドローンによる除草剤、防除（消毒）等を営農から外部に委託している。他の営農にも活用をお勧めしたい。	1	本市としましても、担い手の減少や高齢化が進んでいる農業において、作業の省力化・効率化が図られるスマート農業の導入促進は非常に重要であると認識しており、本ビジョンP48(6)スマート農林水産業の促進の方策において、スマート機械等の導入を促進することとしております。農林漁業まつり等のイベントの機会をとらえ、スマート農業機械の情報発信や技術支援などを行い、引き続き活用促進を図ってまいります。
30	(8) ブランド化の推進	市民に農業への関心と危機感を持ってもらうため、地産地消のアピールが必要と考える。 地元産の野菜を食べることのメリットをもっと訴求していただきたい。物流面（排ガスなど環境負荷の低減）や鮮度面はもちろん、地元の食と農を含む食文化の理解に繋がる。また今後来るであろう食料危機に関しても、自分が住んでいる地域に農業があることが大事になってくると考える。地元の農業を守ることが自分達を守ることにも繋がることを知ってほしい。	1	本ビジョンP52(8)ブランド化の推進の方策およびP68(15)食を通じた生産者と消費者のふれあいの方策において、PRや、生産者と消費者との相互理解を深めること等により地産地消を推進することとしており、生産者と消費者とが交流できる場として「姫路市農林漁業まつり」などのイベントを開催し、農業の役割や食育に関する啓発に取り組むほか、動画やラジオにより本市の農水産業を紹介するなど地産地消の推進に引き続き努めてまいります。ご意見については、当該方策に基づき、事業を実施するうえで参考とさせていただきます。
31		姫路の野菜のアピールだけでなく、生産者自体のアピールが必要と考える。	1	本ビジョンP52(8)ブランド化の推進の方策において、本市で生産された農水産物ブランドに関する情報を、広くPRしていくこととしており、ラジオやパンフレット等を活用した生産者紹介を行っております。また、農林漁業まつり等のイベントの開催を通じて生産者の顔が見える機会を広げてまいります。
32		量販店や飲食店、施設等へ地場野菜の積極的な販売や使用促進（販促POPの拡充と提供）が必要と考える。	1	本ビジョンP52(8)ブランド化の推進の方策において、農産物直売所での販売促進やスーパーでの販売コーナーの設置など、関係機関・団体などが連携して総合的に地元産農水産物の更なる認知度の向上を図ることとしており、引き続き販売・消費促進に努めてまいります。ご意見については、当該方策に基づき事業を実施するうえで参考とさせていただきます。

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
33	基本的方向1 持続可能な農 林水産業の推 進	(8)ブラン ド化の推進  「姫そだち」というブランドの 認知度は現状高くないと思われ るが、「姫そだち」に登録され た生産者が受けるメリットと、 「姫そだち」商品を購入する消 費者側のメリットは何か？	1	「姫そだち」に登録された生産者が 受けるメリットは、市が提供するブ ランドマークシールを農産物に貼り 付けることにより市場や直売所等で 地元農産物として認識してもらうこ とで、消費者の購入意欲を向上させ る効果が期待できることです。 「姫そだち」商品を購入する消費者 側のメリットは、ブランドマークシ ールにより、姫路市内の農産物であ ることが認識できることから、安心 して地元農産物を購入できること です。「姫そだち」を通して、生産者 と消費者との信頼関係の構築につな がっているものと考えています。
34		新規就農者の販促コストの低減 目的として、新規就農者が生産 した農作物で、姫路ブランドと してふるさと納税の返礼品とす るのはどうか。新規就農者の悩 みの一つが消えると思う。	1	ふるさと納税の返礼品については、 各生産者で要件に該当すれば対象に なる場合がありますので、個別の相 談によって担当部局に働きかけてま いります。
35		今後整備が進む道の駅につい て、姫路の農業をアピールでき る拠点になり得る場所だと思 うので、是非とも姫路市内の農水 産物を紹介できるスペースなど を特に充実させてほしい。 視察に行った山形県鶴岡市では ユネスコ食文化創造都市に認定 され、地元食材やそれを使った 料理や食文化を次世代に継承し ていく取組をされており、地元 の在来作物の紹介だけでなく、 文化の紹介、観光案内や飲食ブ ースが立ち並ぶ素敵な空間が作 り出されていた。姫路にも鶴岡 市に負けない食材や料理、食文 化があり、食が観光の一つの柱 になれると考えている。 具体的には以下のようなものを 考えている。 ・地元食材や生産者(伝統野菜な ど)の紹介スペース ・季節毎の収穫体験ツアーの実 施。(道の駅が発着地点とし て、生産者の圃場を数か所回っ て収穫体験ツアーを実施。) ・地元食材をメインとした飲食 店の設置。生産者の思いが伝わ る飲食店を作りたい。	1	本ビジョンP52(8)ブランド化の推進 の方策において、本市で生産された 農水産物ブランドに関する情報を、 広くPRしていくこととしており、 ご意見については、当該方策に基づ き事業を実施するうえで参考とさせ ていただくとともに、道の駅の所管 課にも情報を共有させていただきま す。

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
36	基本的方向1 持続可能な農 林水産業の推 進	(8) ブラン ド化の推進	1	栽培技術、加工品開発等は、県の農 業改良普及センターの専門職員との 連携が有効であるため、県・市が連 携し対応できるよう努めてまいりま す。本ビジョンP52(8)ブランド化の 推進の方策において、6次産業化に 取り組む農林漁業者を支援すること としており、ご意見については、当 該方策に基づき事業を実施するうえ で参考とさせていただきます。
37		(9) 環境保 全型農林水産 業の推進	1	本ビジョンP56(9)環境保全型農林水 産業の推進の方策において、環境負 荷低減の取組を推進していくことと しており、化学肥料や化学農薬の適 正使用や使用量低減技術、有機農業 の普及に努めてまいります。また、 学校給食でのオーガニック食材の利 用につきましては、教育委員会にも 情報共有させていただきます。
38		森と川と海の繋がりについて、 昔の里山は様々な広葉樹・落葉 樹が広がり、春になれば三葉ツ ツジ・ササ百合が咲き乱れ心浮 き立つ季節であった。60年前 のスギ・ヒノキの植林事業によ り、村の周辺は日中でも地面に 陽が届かず、下草も無い森林に 変わってしまった。その結果国 民の半数以上が花粉症になりヒ ルに悩まされ、保水力が無いた め普段の川の水は減少し、大雨 の時は一気水となり、田畑に被 害を及ぼしている。近年漁業関 係者が海の環境改善のため森林 の植樹に参加し、プランクトン 豊富なきれいな水を海に流そう とする取り組みをよく見かけ る。 夢咲山においてスギ・ヒノキを 伐採し、山桜などの広葉樹落葉 樹を育成していく事業につい て、当該事業が景観形成のみな らず豊かな夢前川を取り戻し海 を豊かにする事業である事もア ピールすることを提案したい。	1	本市には、北部の森林から海岸・島 しょ地域に至る、多様な自然資源と 水と緑の自然循環システムが存在し ており、本ビジョンP56(9)環境保全 型農林水産業の推進の方策におい て、多様な自然資源を活かした取組 として、自然環境や生物多様性の保 全の取組など地域活性化の活動に対 する支援に努めております。 現在、夢咲山を含めた北部地域にお いて、針葉樹林と広葉樹林の混交整 備をはじめ、集落周辺の森林整備や 森林・山村多面的機能発揮対策など の様々な森林整備事業に着手してお り、これらの取組が、今後、全市的 に認知されるよう、農林漁業イベン ト、推進会議、プロジェクト推進部 会や連携協定に基づく森林大学校と の事業展開などの様々な場面を捉え て積極的な周知PRに努めてまいり ます。

No.	項目		意見の要旨	件数	市の考え方
39	基本的方向1 持続可能な農 林水産業の推 進	(10) 大学 や研究機関等 と連携した農 林水産業の展 開	姫路の農業を守る為には企業との連携として、自社だけでなく、他の企業とのコラボによる6次産業化や商品開発、ブランディング等に対する支援や農商工学の推進が必要と考える。	1	本ビジョン P58(10) 大学や研究機関等と連携した農林水産業の展開の方策において、農商工学連携を推進することとしており、企業との連携については、各関係団体の要望を把握するとともに、国・県の支援制度情報を提供するなど、他の企業とのコラボによる商品開発等を支援しており、引き続き農商工学の連携を推進してまいります。
40	基本的方向2 安心して暮ら せる農山漁村 づくり	(11) 森林 の適正管理と 多面的機能の 発揮・活用	近年ナラ枯れ被害が増加し、民家裏などの生活環境近くでもナラ枯れ被害が発生している。枯木は倒木し民家等に激突する危険があり、ナラ枯れ被害木の伐採駆除を行うことは安心して暮らせる里山づくりに必要だと考える。	1	ナラ枯れ被害については、近年本市を含む播磨地域全体に被害が拡大しており、民家周辺でも被害が確認されております。このことから、本市におきましても本ビジョン P60(11) 森林の適正管理と多面的機能の発揮・活用の方策において、ナラ枯れ被害の駆除予防措置や被害を受けにくい森林づくりなどの取組を実施することとしており、森林環境譲与税を活用した「集落周辺森林整備事業」により民家等に被害を及ぼす危険性の高い危険木（ナラ枯れ被害木含む）の伐採を進めております。今後につきましても、当該事業とともに、県事業も活用しながら、被害対策を実施してまいります。

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方	
41	基本的方向2 安心して暮らせる農山漁村づくり	(11) 森林の適正管理と多面的機能の発揮・活用	2年ほど前に、集落周辺森林整備事業で家の近くの山が整備された。整備前は、木などが生い茂り近づき難く、古くなった大木もいつか倒れるのではないかという不安もあったが、整備により危険木は伐採され、住宅周辺が明るくなり、子供と一緒に山に遊びに行けるようになった。私が子供のころは、友達と山林を駆け回っていたが、現在の手つかずの山林ではシカやイノシシ、熊といった野生動物との住み分けが出来ていないこともあり、動物との遭遇の危険性や、動物についてきたヒルもそこら中にいるので、子供たちを気軽に山で遊ばせることができない。せっかく豊かな自然に触れ合える環境にいるので、子供たちが安心して自然に触れ合える場として近隣の山々が復活してくれれば、これからの未来を担う若い世代にもう少し森林について興味を持ってもらえるのではないかと思う。ゲームを楽しんでいる時より、自然の中で遊んでいるときの子供の方が格別にいい顔をしている。頭も体も使っているので、子供の教育・成長にも一役買ってくれるものだと思う。また、昨今の自然災害に対応できる環境になってくれることを願っている。	1	近年、管理が行き届かなくなった森林（里山林）内の樹木が大径木化し、豪雨や暴風等の影響による倒木等の被害が発生する危険性もある状況です。また、ご意見のとおり手つかずの山林（里山林）では、人間と野生動物との棲み分けも出来ていない状況であり、野生動物との遭遇や農作物等への被害も増加しております。本ビジョン P60(11)森林の適正管理と多面的機能の発揮・活用の方策において、市民の生活環境を良好に保つため、森林の多面的な機能が発揮できる環境整備を進めることとしており、森林環境譲与税を活用した「集落周辺森林整備事業」や、県民緑税を活用した事業により、集落に近接する未整備森林での危険木伐採や間伐等の森林整備を実施することにより、野生動物が出没しにくく、災害に強い森づくりを進めております。今後も引き続き、森林環境譲与税や県民緑税を活用しながら、森林（里山林）を健全な状態に保全するための整備にスピード感をもって取り組んでまいります。
42		市街地の里山林では手入れがなされず危険を感じる場所もあるため、市が主体となって危険木の伐採や民家裾の里山の整備を、より多くスピード感をもって取り組んでいただきたい。	1		
43		(13) 活力ある農山漁村づくり	p65「多様な交流を促進するとともに交流活動などを推進するリーダーを育成します」とあるが、どのように実施されているのか。	1	本ビジョン P65(13)活力ある農山漁村づくりの方策において、地域の特色に応じた活動への支援を行うこととしており、現在、北部農山村地域において、地域住民が主体となり豊かな自然や美しい景観を活かした様々な取組（花街道づくり推進事業）を支援しております。それらを通して地域の中心となる人材の育成や組織の強化も図っており、今後も交流活動などを推進する人材育成を支援してまいります。

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
44	基本的方向 2 安心して暮らせる農山漁村づくり	(13) 活力ある農山漁村づくり		有害鳥獣対策について、集落営農や認定農業者についての支援はあるようだが、個人を対象とした支援は無い。各個人で田・畑を増やそうと頑張ろうとしても、対策をする事で支出が多くなり、生産意欲が減退してしまう。やりがい農業の実践をしようにも、個人では限界がある。
45			1	本ビジョン P65(13)活力ある農山漁村づくりの方策において、有害鳥獣等による農林水産業への被害対策を推進しており、捕獲従事者の確保は重要な課題であるため、初めて有害鳥獣捕獲活動に参加される方を対象に、狩猟免許取得費用等助成事業において必要経費相当額の半額を補助しています。なお、銃猟の場合は、銃猟の所持許可が必要になるため、銃猟等講習受講料及び射撃教習（又は技能検定）費用相当額を対象経費としており、引き続き捕獲従事者の負担軽減となるよう支援してまいります。
46			1	本ビジョン P65(13)活力ある農山漁村づくりの方策において、有害鳥獣等による農林水産業への被害対策を推進しており、有害捕獲した個体のジビエ利用については、処理加工施設を設置しようとする者に対し、国庫補助事業による補助制度があります。 「有害駆除で捕獲したシカの有効活用を図るため、ジビエ利用を支援します。」の部分については、シカ以外の処理加工施設の整備を支援しないという意図はないので、「シカ」を「シカ等」に修正します。 なお、革細工工場の誘致や循環システムの構築に関するご意見については、産業振興に関連することから、関係課に伝え、今後の施策の参考とさせていただきます。

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
47	基本的方向 2 安心して暮らせる農山漁村づくり (14) 農山漁村の安全・安心の確保	<p>今後想定される大規模災害に対する備えについて深めた記載が必要ではないかと考える。事業提案として、大災害（大地震・津波など）を想定した農林業分野、特にソフト事業に重点を置いた「仮・災害対応シミュレーション」を提案したい。具体的には、姫路市中央卸売市場や直売所をはじめ、市内の飲食店等との連携・協力はどうか。安全・安心な食料の供給体制整備の支援では、特に食の確保（安定供給）に重点を置いた、地域（生産と直売）、市（市場）、JA（大型直売所と流通）や、民間（飲食店）についての役割や連携についての検討。さらに、災害に強い農山漁村づくりとしてのエネルギー確保の面から、農地活用型の太陽光発電や木質バイオマス燃料の活用などの更なる展開。農山漁村を自然災害の被害から守る意識の下、地域住民の防災意識の向上施策で「減災」への取組による安全で安心して暮らせる地域づくりの推進では、特に災害発生後の2次被害対応が重要になると考えるが、以下についての検討が必要と考える。</p> <p>1 地域防災基盤の整備（ソフト）としての連携・協力体制の整備（構築）についてはどうか。</p> <p>2 地域との連携強化などにより地域防災力の向上を図り、「減災」に努めるための地域ボランティア活動での役割（衣・「特に食」・住確保）。</p>	1	<p>本市の防災対策のソフト面については、「地域防災計画」により対応することとしております。</p> <p>災害時の食料の供給体制や、エネルギー確保について、本市では大規模な災害が発生し、被災都市のみでは十分な応急措置が実施できない場合に、職員の派遣、緊急物資や資機材の提供など相互に応援協力するため、様々な団体・民間企業等との協定等の締結による連携強化を図っております。</p> <p>また、本ビジョンにおいても、災害に強い農山漁村づくりを推進することとしており、施設の整備及び防災工事等を進めるほか、地域住民参加による地域防災力の向上のため、危険箇所の周知、地域住民の防災意識の向上などの対策を行うことにより「減災」への取組を進め、市民の誰もが安全で安心して暮らせる地域づくりを推進してまいります。</p> <p>ご意見のとおり、地域との連携も重要であり、姫路市地域防災計画の中でも、応急対策を実施するに当たり、役割分担に応じた姫路市連合自治会や自主防災会等の民間団体との連携について定められています。</p>

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
48	基本的方向3 農林水産業とのふれあい促進 (15) 食を通じた生産者と消費者とのふれあい	神戸市ではEAT LOCAL KOBEという取組があり、11月に三宮の東遊園地で行われたマルシェで、トウモロコシが軽トラックいっぱいディスプレイされた様子は圧巻であった。EAT LOCAL KOBEでは就農希望者のためのスクール開催からマルシェの開催、そしてリアルショップまでと入口から出口まで見えるしくみが構築されているようで、姫路市でもこのような取組があれば良いと思う。	1	本市においても、本ビジョンP68(15)食を通じた生産者と消費者とのふれあいの方策およびP32(1)農業の多様な担い手の確保・育成の方策において、イベント等を活用した消費者と生産者の交流促進や、農業研修等就農定着に向けた支援を行うこととしており、具体的には「農林漁業まつり」等の農林水産関連イベントの開催や「ひめじ帰農塾」や「林田チャレンジ農園」といった農業研修を実施しております。また、直売所や体験施設については、市のHPや紹介冊子により周知・PRを行っております。ご意見を踏まえ、他都市の事例も参考にしながら、既存のイベント等がより魅力的なものになるよう努めてまいります。
49		10年程前の農林漁業まつりと比べ、今は農産物販売は少なく飲食中心になっているのは残念に思う。もっと生産者の出品が多くなるようなまつりにしてほしい。	1	本ビジョンP68(15)食を通じた生産者と消費者とのふれあいの方策においてイベント等を活用した消費者と生産者の交流を促進することとしており、農林漁業まつりでは、農水産物生産者や関係団体を中心に来店していただいています。現状としては、農産物を販売するだけではなく、農業者自身で加工・調理を行ったものを提供していますので、以前よりは農産物を販売する方が減少しております。開催時期も含め、より多くの農産物が提供できるよう生産者と調整・検討を進めてまいります。
50		市民に農業への関心と危機感を持ってもらうため、各小中学校とその近隣農家との交流が必要と考える。 まず「ここに農業がある」ことを認識してもらう。さつまいも掘り等の簡易な交流から、講演会や年間通しての栽培体験と成長過程の観察からの収穫など農業の喜びや難しさを少しでも感じてもらう。スーパーに綺麗な野菜がいつもあることが当たり前ではないことを知ってもらえたり、食について考える1番の機会であるため、本当の食育になったり将来の就農にも繋がると考える。	1	各校の規模や方針にもよりますので、すべての学校での実施は難しいと考えますが、既に地元農家と協力し授業として取り入れている学校もあります。 また、本ビジョンP68(15)食を通じた生産者と消費者とのふれあいの方策において、体験学習を通じた食育の推進を図っていくこととしており、農業振興センターでは、保育園や幼稚園から小学校までの子どもたちを対象とした農業体験や、中学生を対象としたトライやる・ウィーク、高校生以上を対象としたインターンシップも実施しております。ご意見の趣旨に沿った食育につながるよう、様々な機会をとらえ啓発してまいります。



No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
51	基本的方向3 農林水産業と のふれあい促 進	(16) 農林 水産業とふれ あう機会の充 実	1	本ビジョンP71(16)農林水産業とふれあう機会の充実の方策において、農林漁業体験などにより市民の農林水産業や農山漁村に対する関心と理解を深めることとしており、本市では3か所の市民農園を開園しています。しかしながら、利用率が約6割にとどまっておりますので、今後も広く市民に周知し、より多くの人に農業体験の機会を提供できるよう努めてまいります。
52			1	本ビジョンP71(16)農林水産業とふれあう機会の充実の方策において、農林漁業まつりでの木工体験機会等を通じて、木の良さを実感することにより林業への関心を高めることとしており、大人から子どもまで市民に山の魅力を伝えていけるよう引き続き取り組んでまいります。また、森林・林業についてもっとPRをしていけるよう、森林・林業の現場などに関する動画等を配信するなど、市民に森林・林業を身近に感じていただけるよう取り組んでまいります。

◎ 第4章 計画期間内に取り組むアクションプランに関すること

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
53	1 グリーンファミリー制度 (農業分野)	新規就農や就農後の支援に対する情報の周知が足りないのではないか。就農をサポートする窓口もあると案に記載されているがどこに有りどうすればよいのか分からない。	1	本ビジョンP74-1 グリーンファミリー制度(農業分野)のアクションプランに基づき、具体的な取組を検討しており、就農に必要な情報を集約し、ひとつの窓口で相談から就農(新規、半農半Xなど)までをトータルにサポートする専門的な知識を持った相談員(就農コンシェルジュ)の設置を検討しております。就農を希望される方が求める情報を手に入れられるよう、就農冊子の作成やセミナーへの市就農相談ブースの出展等を行っており、引き続きPRに努めてまいります。
54		就農コンシェルジュの設置について、どのような経歴の方がコンシェルジュに任命されるのか?また、いつ頃までに設置予定か?	1	本ビジョンP74-1 グリーンファミリー制度(農業分野)のアクションプランに基づき、具体的な取組を検討しており、就農コンシェルジュとなる者や設置時期については現在検討中です。

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
55	1 グリーンファミリー制度 (農業分野)	姫路市独自の支援策として「ひめじファーマースタート支援事業」とあるが、移住者だけでなく市内在住者にも適用される同様の制度もあるとよいと思う。	1	本ビジョンP74-1 グリーンファミリー制度(農業分野)のアクションプランおよびP32(1)農業の多様な担い手の確保・育成の方策において、市内外の就農者を支援していくこととしており、当該方策に基づき事業を実施する上で参考とさせていただきます。
56	3 水産物流通拠点としての妻鹿漁港の機能強化	妻鹿漁港の流通拠点としての整備は、漁業者にとって高齢化対策や労働環境の改善に欠かせないものと認識している。国や県と一体となって、姫路市にも積極的な支援をお願いしたい。	57	妻鹿漁港は水産物流通拠点として重要な役割を担っており、本ビジョンでも、P78-3 水産物流通拠点としての妻鹿漁港の機能強化として「計画期間内に取り組むアクションプラン」に位置付け、整備等を積極的に支援してまいります。

◎ その他に関すること

No.	項目	意見の要旨	件数	市の考え方
57		栽培している農地の税金面での優遇(当園では市街化区域も多く税金負担高め)が必要と考える。貸し手の地主にも税金面で優遇することで、貸借代軽減につながり、貸しやすく借りやすい体制ができる。	1	ご意見は今後の農業者支援を検討するうえで参考とさせていただくとともに、税制や都市計画を担当する課にも情報を共有させていただきます。

3 市民意見提出手続きの実施結果に基づく修正箇所(新旧対照表)

意見番号	旧	新	ページ
27	・漁場の貧栄養化の抑制については、兵庫県栄養塩管理計画に基づき、市内4ヶ所の下水処理場において栄養塩管理運転を実施しており、 <u>今後も継続的な実施に努めます。</u>	・漁場の貧栄養化の抑制については、兵庫県栄養塩管理計画に基づき、市内4ヶ所の下水処理場において栄養塩管理運転を実施しており、 <u>今後も継続的に実施していきます。</u>	45
46	・有害駆除で捕獲したシカの有効活用を図るため、ジビエ利用を支援します。	・有害駆除で捕獲したシカ等の有効活用を図るため、ジビエ利用を支援します。	66